

社会厚生常任委員会行政視察報告書

1. 日 程 平成 30 年 2 月 22 日 (木)
2. 視察先等 見附市 人口 40,608 人 (平成 27 年国勢調査)
面積 77.91 km²
3. 視察事項
 - ・ みつけ健幸の湯「ほっとぴあ」について
 - ・ 「ほっとぴあ」の現地視察
 - ・ ネウボラみつけ について
4. 視察者
 - 委員 長 大平一貴 随 行 美原弘美
 - 副委員 長 三沢嘉男 (議会事務局主査)
 - 委 員 藤田明美
 - 委 員 森山一理
 - 委 員 茂岡明与司
 - 委 員 関 龍雄

◎見附市の概要

南北に長い新潟県のどまんなかに位置するまち、見附市。新潟県の重心地（新潟県の地図を開いたときバランスのとれる地点、北緯 37 度 31 分 19 秒・東経 138 度 54 分 50 秒）が見附市にあります。

市内には、信濃川水系の刈谷田川が流れ、豊かな水と清涼な空気に恵まれています。豊かな自然、県内でも有数の田園地帯を保有していることから、春の芽吹き、夏の深緑、秋の紅葉と黄金色の稲穂、そして冬の銀世界、四季折々の風情を味わうことができます。

市内には、医院やスーパーなど生活に欠かせない施設も多くあり、市民の生活を支えています。また、北陸自動車道など交通網にも恵まれ、自動車で 30 分足を伸ばせば、海に山にさまざまなレジャーを堪能できます。

そんな、美しく、利便性の高い環境に囲まれて、まちにはいつも市民の明るい笑顔があふれています。

○みつけ健幸の湯「ほっとぴあ」について、現地視察

街中の賑わいをつくる事を目的に建設が計画された。従来は、公共の温浴施設とコミュニティセンターがあったが、老朽化により廃止されたため賑わいがなくなっていた。

建設にあたり、コンサルティング会社の調査で年間 20 万人の利用者が見込まれた事、まちづくり交付金の申請が認められ、建設費の半額を補助された事で建設した。まちづくり交付金は、当初、認められなかったが、福島からの避難者が以前あった 100 円風呂を利用していた事、お風呂は江戸時代から続く文化施設である事の主張により決定した。

施設は、1 階は、コミュニティ施設として無料開放。2 階は、温浴施設。3 階は岩盤浴等がある。

建設費は、12.57 億円で小柳建設が施工した。運営は、株式会社本久（長野市）が 5 年契約で請け負い、1 階のみ指定管理料を支払っている。温浴施設が黒字の場合は、黒字の半分を市に納入。赤字の場合は、指定管理者が負担する事になっている。

ほっとぴあ開設後、商店街の歩行者数は、1 日平均 523 人から 581 人に約 11%増加した。また、街中に新規出店する場合、従来 50 万円であった補助を 250 万に増額する事とあわせ平成 27 年から 9 件の新規出店があった。

ほっとぴあで、正社員 3 人、アルバイト 40 人の雇用を生み出している。

燃料は、都市ガスを利用している。

【所感】

指定管理者として民間企業に運営を任せているため、集客のための工夫が生まれ、利用者の満足度が高まり、利用者が増加し、収益が生まれている。加茂市においては、温泉を出す努力はしたが、利用者の満足度を高める努力が少ないため利用者が減少している。利用者の満足度を高めるには、運営の工夫が必要で、その自由度を高めるためには、指定管理者制度を導入するか、コンサルティング会社と契約しそのアイデアを市が柔軟に実行する事が求められる。

○ネウボラみつけについて

子育て窓口が、教育委員会、福祉に分かれていたので統合し、妊娠から育児までまた、発達の気になる子供の早期支援を一元化した。ネウボラみつけは、助産師、発達相談支援員、保育士、心理相談員、言語聴覚士、保健師で構成され、保健福祉センターに 1 室設けている。

事業内容は、産前・産後サポートとして、「ほっとカフェ with 子育てマイスター」を毎週月曜日午前 10 時から正午まで開設し友達作りを支援している。産前サポートとして、「パパママ学級」を開設し、男性の妊婦体験、育児体験等を夫婦で学ぶ講座を行っている。産後サポートとして、「新生児・産婦訪問」、「こんにちは赤ちゃん訪問」、「BP プログラム（仲間づくり、親子の絆づくり、少し先を見通した育児の基礎知識の学習）」を行っている。産後ケア事業として、訪問型（看護型・ヘルパー型）、通所型を実施している。また、児童発達支援相談室を設け、発達相談、初期療育「つぼみ」、療育教室「のびのび」、ことばの相談室「すこやか」、つくし会、すくすく園児応援事業を行って

いる。

【所感】

核家族化の進行により、身近に相談できる支援者がいないため妊娠、出産、育児に不安を持つ人が増えている。この状況を市長が理解し、市長の指示でネウボラみつけが組織された。子育て支援で、年間出生数300を維持しようとする見附市の姿勢がうかがえる。加茂市にも県外から来ている妊産婦がおり、地元の友人がいない事から孤立する可能性が高くなっている。このような社会的な変化に加茂市も対応する必要がある。